3.教養教育の改革に向けた取組み

1）FD・SD研修会の開催 …… 64

2）PA型教育の実践 …… 69

3）PA型教育の達成度を評価する方法の考案・試行 …… 71

4）PA型教育を担う新組織の設立 …… 72

3. 教養教育の改革に向けた取組み

1）FD・SD 研修会の開催

教養教育の改革をさらに進め、PA 型教育の構築を目指すために、今年度は主に PA 型教育導入・推進に向けた教職員の理解・能力の向上を目的とした研修会として、次の通り開催した。

①PA 型教育用教職員研修（湘南校舎）

開催日：2015 年 8 月 18 日（火）～19 日（水）

場　所：湘南校舎　18 号館サイエンス・フォーラム

講　師：Dennis Donovan（National Organizer for Publlic Achievement, Sabo Center for Democracy and Citizenship at Augsburg College.）

Elisabeth Bott（Student Fellow, Sabo Center for Democracy and Citizenship at Augsburg College.）

参加者：36 名（湘南、高輪、清水、伊勢原、熊本、阿蘇校舎教職員等）

概　要：

【1 日目：8 月 18 日（火）　Concept and Purpose of Public Achievement Education 】

時間	内容
13:00	開会挨拶
13:05	Check-in for Training Program
13:30	Models of democracy and citizenship What is civic agency?
14:15	Coffee Break
14:45	Public Achievement terms
	Public Achievement Education at Tokai University ・Learn and teach Public AchievementEducation practices ・Introduce Public Achievement process
15:45	Evoluation
16:00	Adjourn

1 日目は、梶井副学長から研修の目的等の説明がなされ、授業への活用や評価のポイントなどについて理解を深めてほしいと期待が寄せられた。研修は Dennis Donovan 氏による PA のコア・コンセプトである Citizenship についての解説からスタートした。PA 型教育を行う上で重要となるのは「Civic Agency（市民的エージェンシー）」であり、スターウォーズの登場人物等の身近な事例を用いて Civic Agency の特徴についても詳しく解説された。「学生にとっての最初の大きな課題は何だったか」という Donovan 氏の問いに対して、PA コーチの経験を持ち、今回 Donovan 氏のアシスタントとして参加した Elisabeth Bott さんは「自分は何に関心があるのか、なぜ情熱を感じるのかを知ることが最初の大切なステップでした」と答えた。また、ミネソタへの留学時に PA の授業を受講した経験のある他大学学生（Donovan 氏の呼びかけで参加）は「自分自身が主役となりクラスの中で意見を発表することが課題でした」と述べた。このように学生たちが感じる課題を解決していくことで、Civic Agency の醸成につながると Donovan 氏は解説された。

参加者に対しては「日本社会における現在の課題は？」という質問が投げかけられ、次々に挙がった回答を、日本の考え方の一部として興味を持たれた一方で、「米国でも課題は類似し

ている。自ら行動を起こす人材を養成していかなくてはならない。また、今回挙げられたような課題や問題について、日ごろから学生と話し合う機会を設けていくべきだ」と述べた。

さらに、PA を実践するにあたり必要と考えられるプロセスについて、PA では社会に関わる全ての人を社会人と呼ぶこと、学生に社会の問題が自分たちの問題であることを理解させること、課題解決に向けたアクションプランを作り、実行し、成果を発表・共有した後は必ずお祝いすること（celebration）などの解説がなされ、参加者と活発な意見が交わされた。

【2 日目：8 月 19 日（水） Public Achievement Practices 】

時間	内容
9:30	開場
10:00	Public narrative and one to one relational meetings
11:15	Doing the Public Achievement process in 45 minutes ・Role of coach (facilitate team, project manager, experiential educator) ・Issue development, power mapping, action
12:00	Lunch
13:00	Free space and civic deliberation
14:30	Coffee Break
15:00	Civic agency indicators, evaluation, and questions
16:00	Adjourn

2 日目は「Learning about how to create free space in the classroom」「Learning about how to evaluate student’s outcomes in PA classes and projects」と題し、若者の社会参加に関する自己関心（self-interest）の引き出し方や 1 対 1 の関係性を作り他者への理解を深めるために有効な One-to-one インタビュー、地域が抱える特定の課題について関係者を書き出しながらその解決策を探る Power mapping などの PA を実践するための手法について解説がなされた。また、実際に参加者同士で One-to-one インタビューや 4 名～8 名のグループを作って話し合い、発表する Free space など PA のプロセスを体験するワークショップも行われた。

参加者からは、「講義だけではなく、ワークを含む研修であったので、理解度が高まったと思う。PA 教育に関するコーチ用のハンドブックを読むだけではわからない細かいことを学ぶことができて良かったと思います」、「これまでの FD で海外研修の報告という形で伺っていた PA について、直接レクチャーを受けることができてとても有意義でした。とても理解が深まったと思っています」、「学部初年次教育、専門ゼミのあり方を考える機会となりました。自分の行っている教育が確認できました。このような教職員の学ぶ機会が増え、学内で普遍性を持つことを望みます」などのコメントが寄せられた。

②PA 型教育用教職員研修（札幌校舎）

開催日：2015 年 8 月 21 日（金）

場　所：札幌校舎　マルチメディアホール（第 1 部）／N212 教室（第 2 部）

講　師：Dennis Donovan（前述と同じ）

Elisabeth Bott（前述と同じ）

参加者：約 50 名（札幌校舎教職員、学生）

概　要：

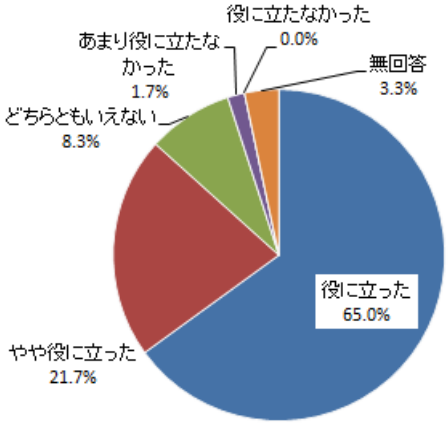
開始時間	内容
	第1部　パブリック・アチーブメント型教育に関するレクチャー
10:00	開会挨拶
10:10	Lecture by Prof. Dennis Donovan
11:10	Break
11:20	Demonstrating PA-related activities - one-to-one interview, public narrative, etc.
	第2部　パブリック・アチーブメント型教育の実践
12:00	Lunch
13:00	Workshop: Practicing PA-related activities - one-to-one interview, public narrative, group discussion, etc
15:00	Short presentation by the group leader students
15:30	Comments from Prof. Donovan and Ms. Bott
16:00	終了

第 1 部では Donovan 氏による PA 型教育に関する基調講演及び PA 型教育手法の実演が行われ、第 2 部では第 1 部で学んだPA型教育手法の実践として、「取り組むべき社会問題について」をテーマに、参加した教職員・学生によるグループディスカッションを行い、グループリーダーを務めた各グループの学生がその内容を発表した。

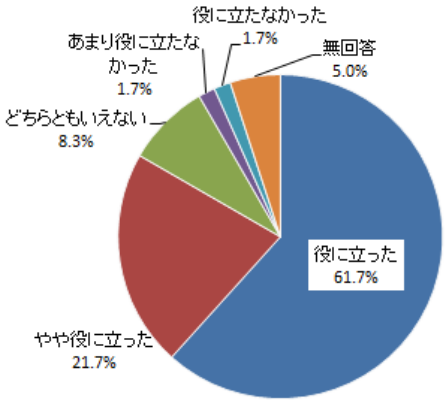
参加者からは、「今後の PA 型教育の導入のみならず、自分が現在行っている地域連携活動の 1 つの指針ともなるものだった」、「さまざまな科目の少なくとも一部には取り入れることはよいと思う。例えば、学科の 15 回の授業の中で 2-3 回話し合いの場をもち議論を深めることは、学習効果を高められると思う」、「One-to-one の方法は、学生がどのようなことを考えているかを理解する上でよいと感じた。普段の授業では一方的に話してしまうので、学生に授業時間の 8 割は話をさせられるようになりたい」などのコメントが寄せられた。

湘南・札幌校舎の参加者を対象に行ったアンケート結果からも、これらの研修は PA 型教育への理解を一層深めたと考える。

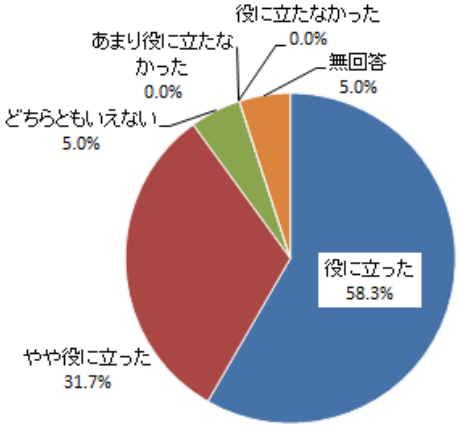
Q1. 本研修は、PA 型教育を理解する上で役に立ちましたか？



Q2. 本研修は、シティズンシップを理解する上で役に立ちましたか？



Q3. 本研修は、PA 型教育特有のコミュニケーション手法を理解する上で役に立ちましたか？



③合同 FD 研修会

【2015 年 6 月 10 日（水）】

主　催：総合教育センター／チャレンジセンター／To-Collabo 推進室

講　師：大江一平（総合教育センター准教授）、堀本麻由子（チャレンジセンター准教授）

参加者：24 名

概　要：本研修会は、PA 型教育について改めて理解する機会として開催され、大江准教授より PA 型教育のコア・コンセプトや PA 型教育でよく用いられるフリー・スペースに関する説明がなされた。その後、堀本准教授より、PA 型教育を行うにあたり、教職員に求められる役割（コーチング）について説明がなされた。その後、フリー・スペースの課題設定方法や授業での導入方法について質疑応答が活発になされ、2 センター間で PA 型教育に対する共通理解が図られた。

【2015 年 9 月 18 日（金）】

主　催：生物学部

講　師：酒井陽年（株式会社リアセック　キャリア教育推進グループ）

概　要：札幌校舎にて、生物学部教員を対象に、今年度の PROG 結果や昨年度からの経年変化、結果をどのように教育に活かすことができるかについて、講演をしていただいた。

【2016 年 1 月 20 日（水）】

主　催：キャリア就職センター／チャレンジセンター／To-Collabo 推進室

講　師：酒井陽年（株式会社リアセック　キャリア教育推進グループ）

参加者：23 名

概　要：湘南校舎で今年度 PROG 受験を実施した関連部署として、キャリア就職センターとチャレンジセンターの合同 FD 研修会を開催し、今年度の PROG 結果や昨年度からの経年変化、学生行動調査との因果関係等について、結果をど

のように教育や学生指導に活かすことができるか、講演をしていただいた。その後、経年変化で結果が下がった学生への対応やその要因に関する問い、学生行動調査との因果関係等について質疑応答が活発になされた。

④ファシリテーター育成研修会

開催日：2016 年 2 月 18 日（木）～19 日（金）／ 2016 年 3 月 3 日（木）～ 4 日（金）

主　催：To-Collabo 推進室

講　師：野村恭彦、芝池玲奈（株式会社フューチャーセッションズ）

参加者：教職員 35 名

概　要：今年度から新たに実施しているフリー・スペース等、多様なステークホルダーを招き入れ、対話の場をファシリテーションし、教職員を核とした“解決策を導くことのできる人材”を学内に育成していくことを目的として 2 日間のプログラムを実施した。

【1 日目】

時間	内容
10:00	チェックイン
10:30	フューチャーセッション概論
11:30	昼食
12:30	フューチャーセッション体験 ・8つの対話の方法論 （サークル、ストーリーテリング、ワールドカフェ、フィッシュボウル、マグネットテーブル、ブレインストーミング、ドット投票、クイックプロトタイピング）
15:00	ファシリテーション実践準備（問いづくり＋対話設計）
16:30	チェックアウト

1 日目は、講師により、プログラムのねらいやフューチャーセッションの概念について解説がなされた後、8 つの対話方法論を用いたセッションの基本パターンを体験した。その後、2 日目の実践に向けて、それぞれが関心を抱くテーマについて「問い」を設定し、22 分間のセッションを設計した。

セッションの基本パターンの体験では実際にテーマが設けられたことにより、参加者同士の活発な対話が生まれ、その中でさまざまなアイディアが飛び出した。対話を通じてフューチャーセッションの理解が深まっただけではなく、本研修会自体が新しい発想を生む場となった。最後に参加者全員から 2 日目への期待が語られ、1 日目を終えた。

【2 日目】

時間	内容
10:00	チェックイン
10:30	ファシリテーション実践 【30分×8コマ×2グループ】 進め方：・オープニングトーク ・メインアクティビティ ・クロージングトーク ・講師・参加者からのフィードバック
12:00	昼食
13:00	ファシリテーション実践（続き）
15:30	振り返り・ネクストステップ設計
16:30	チェックアウト

2 日目は、2 グループに分かれ、1 日目に各自が設計した 22 分のセッションを全員がファシリテーターとして実践・体験することで、場の運営方法とファシリテーターのあり方について理解を深めた。また、ファシリテーターへのフィードバックとして、残りの参加者は良かった点・改善点等を付箋に書き出し、グループ全体で実践を振り返った。

参加者からは、「普段ではなかなか聞けない話や、皆さんの熱い想いが感じられて良かった。今後、うまくこの技術を生かして対話・セッションしていきたい」、「具体的な手法だけでなく、雰囲気作りまで細かな配慮が大切だと気づいた」などのコメントが寄せられた。

2）PA 型教育の実践

「地域の課題を考えよう！ フリー・スペース」の創設

今年度、地域の課題を本学学生、教職員、地域・行政の人が共に考える自由な話し合いの場として「フリー・スペース」を湘南校舎で創設した。学生がより地域を理解するとともに、地域との連携に関心をもつこと、また最終的には地域との連携活動や PA 型教育の活動の場につなげることを目的としている。2015 年 7 月にキックオフとして第 1 回目を開催し、今年度は計 3 回開催した。

【第 1 回】

テーマ：「地域防災」

開催日：2015 年 7 月 16 日（木）

場　所：サテライトオフィス地域交流センター

参加者：24 名（教職員・学生・地域住民・行政関係者）

ファシリテーター：堀本麻由子（チャレンジセンター准教授）

概　要：まず、ワールドカフェ方式を用いた話し合いの進め方を学び、「地域防災に強い街はどんな街？」という問いに対して、5～6 名のグループに分かれ、各グループのリーダーが中心となり、模造紙や付箋に書き出しながら意見を出し合った。

次に、リーダーを席に残す形でメンバーが別グループのテーブルへ移動し、それぞれのグループで出た意見を紹介し合いながら、アイディア同士の新しいつながりを探していった。そしてもとのグループに戻って他のグループから得た意見を共有し、意見をまとめ上げ、最後に各グループの代表者が模造紙を見せながら発表を行った。

【第 2 回】

テーマ：「地域と大学の連携について」

開催日：2015 年 10 月 19 日（月）

場　所：湘南校舎 17 号館

参加者：50 名（教職員・学生・地域住民・行政関係者）

ファシリテーター：田島祥（チャレンジセンター講師）

概　要：5～6 名のグループに分かれ、メンバーの組み合わせを変えながら小グループで話し合いを続け、大学と地域とが交流を深めるための方策について意見交換が行われた。話し合いの中で出たアイディアを各グループで模造紙や付箋に書き出していった。「コミュニケーションを深めるためには、日ごろの挨拶が大事」「大学生が自治会に参加できる仕組みづくりを考える」など、グループとしての考えをまとめ、最後に全員の前での発表を行った。

【第 3 回】

テーマ：「地域の情報共有について」

開催日：2015 年 12 月 22 日（火）

場　所：湘南校舎 17 号館

参加者：40 名（教職員・学生・地域住民・行政関係者）

ファシリテーター：富田誠（教養学部芸術学科講師）

概　要：3 回目はこれまで 2 回の対話の方法や議論の手法を変え、2025 年の未来を想定し、地域の人と人がつながるための「知るしくみ」を考えた。

人と人がつながるための情報共有にはどのような秘訣があるのかについて、参加者数人に体験談を述べてもらった後、日ごろから情報共有において気をつけていることなど、参加者全員がそれぞれの体験を紙に書き出していった。その後、2025 年の未来予想や変化の兆しを全員で共有し、個々人が 2025 年に地域の人と人がつながるために作ってみたい「知るしくみ」を考え 1 枚の紙にまとめた。参加者は自分で書いた紙を掲げ、似たアイディアを持つ人や繋がりたいと思うアイディアを掲げる人同士で 5～6 人のグループを形成。グループごとに話し合い、ひとつのアイディアにまとめ、それを 4 コマ漫画にして最後に発表を行った。

グループで語られたアイディアの視覚化や 4 コマ漫画の制作には、各テーブルに配置された教養学部芸術学科デザイン学課程の学生 5 名が担当した。

3) PA 型教育の達成度を評価する方法の考案・試行

株式会社河合塾と株式会社リアセックが共同開発した「PROG」（専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（＝ジェネリックスキル）を育成するためのプログラム）という調査手法を用いて、今年度も継続して学生の汎用的基礎力を測定し、今後の教育プログラムの検討に役立てるとともに、PA 型教育実施の有効性を測定する基礎資料としてデータを蓄積した。

なお、昨年度は「リテラシー（知識を基に問題解決にあたる力）」と「コンピテンシー（経験から身についた行動特性）」の 2 側面で評価の試行を行ったが、To-Collabo プログラムの地域社会を通じた経験や PA 型教育で身についた能力としての成果評価を考慮し、多くの学生の「コンピテンシー」測定を定期的に実施することが必要だと判断し、今年度は「コンピテンシー」測定のみ行った。

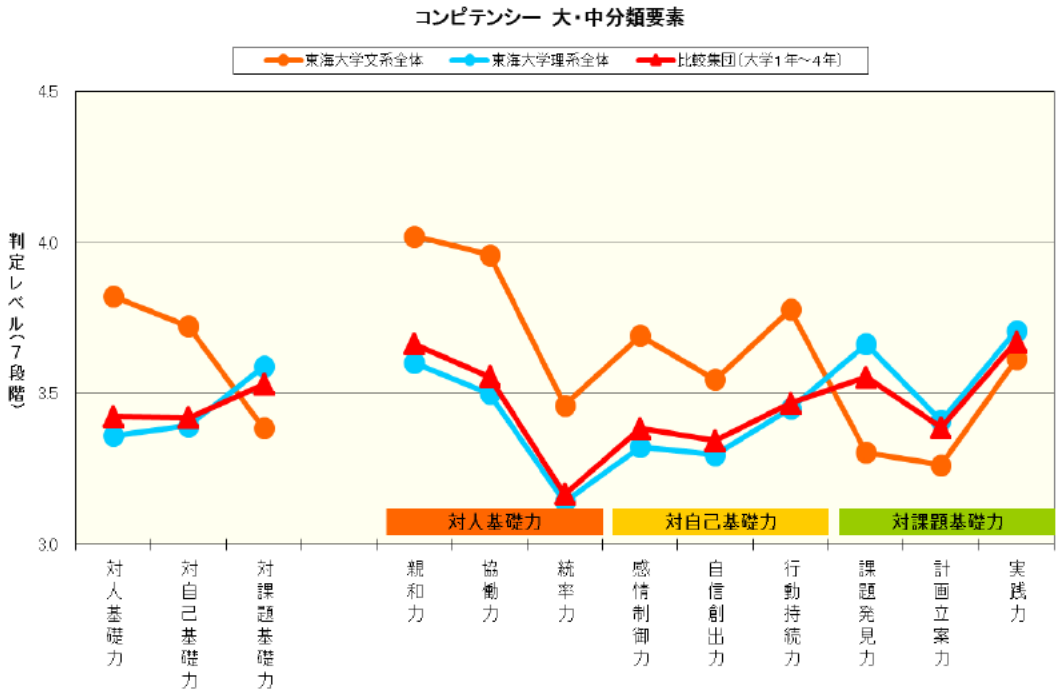
また、その学生の「コンピテンシー」を形成した、あるいは高めた（低めた）要因を調査するため、学生行動調査も合わせて実施した。

今年度は、湘南校舎、清水校舎、熊本校舎、阿蘇校舎、札幌校舎の一部学生、計 2669 名が受験した。

［集計結果］

受験者：文系 1,269 名　理系 1,389 名

・文系学部は、対人基礎力・対自己基礎力が、全ての項目において、理系学部、比較集団（他大学１年～４年）より、上回っている。ただ、対課題基礎力は下回っており、中分類で見ると、特に課題発見力の開きが目立つ。一方、理系学部は、対人基礎力・対自己基礎力が、比較集団と比べて下回っており、特に、対人基礎力の開きが大きい。



こうした PROG 受験の結果については、過去 2 年度分と併せて、今後の教育プログラムの検討に活かすこととしている。また、「コンピテンシー」測定結果と学生行動調査結果の相関分析まで行うことで、今後の教育プログラムを検討するに当たり、より具体的なプログラム計画・改善を行うことが可能になると考える。

4）PA 型教育を担う新組織の設立

PA 型教育を担う新組織として､2016 年度より現在の総合教育センターとチャレンジセンターを統合した現代教養センターが設置されることとなり、2015 年度は統合に向けて、合同 FD 研究会や運営体制の検討を行った。また、東海大学教育審議会の下部組織として、現在それぞれのセンターで担当している科目を検討する基礎教養科目検討委員会と PA 型教育の中核となる必修 3 科目（シティズンシップ、ボランティア、地域理解）等を検討する発展教養科目検討委員会を設置し、今後の PA 型教育の運用について検討を行った。

東海大学の新たな地域連携 To-Collabo プログラム 2015
成果報告書
2016 年 3 月
発行　東海大学 To-Collabo 推進室

公式WEBサイト https://coc.u-tokai.ac.jp
Facebook https://www.facebook.com/tokai.coc

HP　FB